

中部自治会防災ニュース

平成23年度 第3号(7月)

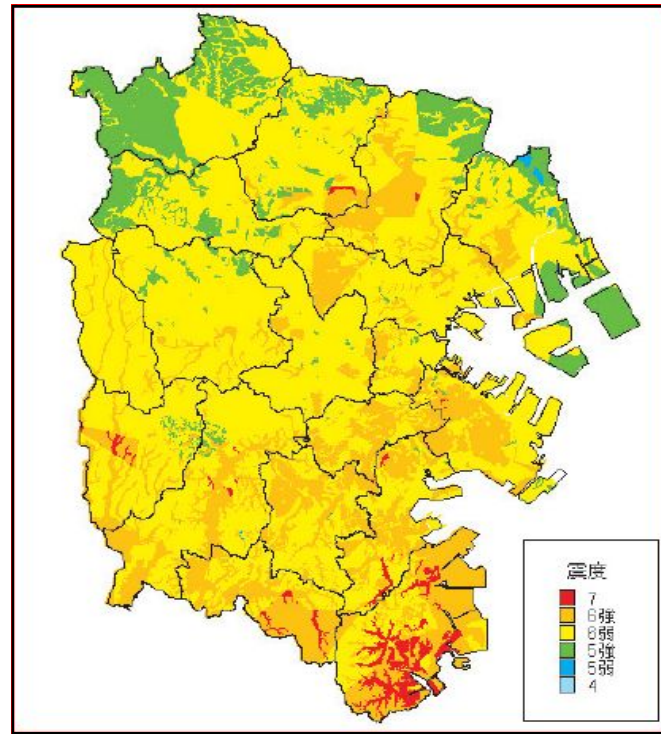
ごあいさつ:6月の防災ニュース第2号に引き続き、前回疑問であったことのうち、起きるといわれている東海地震時の被害について、先月に引き続き当地域の「防災の鉄人」に聞いてみました。敵を知り己を知れば百戦危うからず、まず敵(震災の被害)を知りましょう。

3.11の大震災は大変怖い思いをしましたが、近くで起きる地震のときは、どんな状況なのでしょう。先月の防災マップを見ても、事前の対策や起きた後の対策しか載ってないのですが。

国や県などが予測しているが、横浜市の予測がもっとも身近なものなのでそれを見て見よう。
「横浜市防災計画 震災対策編(平成20年12月)」という387ページの書物に書いてある。
この中では、可能性のある3つの地震について紹介されている。(右図)

条件項目	南関東地震	横浜市直下型地震	東海地震
発生時期	冬(平日)の午後6時		
震源地	相模湾	横浜市直下	駿河湾
規模	M7.9	M7.0	M8.0
市内の震度	震度5弱~7	震度5強~7	震度4~6弱
気象状況	北の風3m/s		

以下、最も影響(被害)が大きい「南関東地震」について見てみよう。
まず関心があるのが「震度」じゃが、少し見にくいが右図のような震度マップが紹介されており、金沢区・磯子区・栄区といった南部の区は震度7にみまわれるが、青葉区は震度5強~6弱と予測されている。



エッ、この前だって青葉区は震度5強だったのですよね! M(マグニチュード)だって9だったんでしょ!

そのとおり。実際「想定外」だったね。
現在、横浜市も歴史を遡ったり、直下型地震の可能性など、見直しをしている最中と思うが、以後は3.11以前の予測という前提で案内する。

まず建物や人的被害であるが、右図を見て欲しい。これも横浜市防災計画に出ているが、青葉区の場合、死者は人口比で15,000人に一人、被害棟数は、60~70棟に1棟と予測している。

	横浜市	青葉区
死者	3,700人	21人
負傷者	25,000人	250人
被害棟数	120,000棟	960棟
焼失棟数	6,900棟	0棟
帰宅困難者	440,000人	35,000人

美しが丘1~3丁目には確か人口15,000人で、建物の棟数は3,600くらいと聞いたから...死者1? 被害棟60棟。亡くなられ方はよほど運の無い人ね。



その考えが大きな間違いじゃ! 亡くなるのはあなたかもしれないしあなたの家族かもしれない! またあくまで計算値で当然「想定外」は起こりうる! こうした災害など負の目標値は「ゼロ」でなければならないし、ゼロとするための努力が「防災計画」であり私たち一人一人の「自助・共助」の活動でなければならない。横浜市もあなたみたいな「楽観人間」やまた過度な「悲観人間」がいるため、「数字の独り歩き」を防ぐため、こような数字を表に出す際には気をつけておるのじゃ。



今回の福島第一原子力発電所の事故だって、何がほんとで何がうそなのか、現実には冷静に理解しながらしっかり自分の考えをもって対応していかなければならない、ということね。



大分わかってきたようじゃな。「自分のまちは自分で守る」という言葉があるが、他人や行政の支援を理解したうえでの、自助努力が大切ということじゃ。

つぎに電気・水道・電話・ガスなどの、いわゆるライフラインの被害予測を見てみよう。
3.11でも停電はもっと多かった気もするし、上水道とガスは止まると思った方がよさそうじゃ。
電話不通率は、回線そのものは切れたりしないが、通話が急激に増えるため、回線の容量がパンクしてかからない状況が出るそうじゃ。
また復旧にかかる時間は...事業者は目標を持って努力するが、わからないというのが正直なところではないか。

	横浜市	青葉区
停電率	12%	6%
上水道断水率	63%	24%
下水道被害率	1%	1%
電話不通率	2%	1%
ガス供給停止率	60%	—



鉄道も止まるし、帰宅出来ない人も増えるんでしょうね。



鉄道は一定震度以上を感知すると、自動的に止まるし、また全線にわたる安全確認をしなければならないため、長時間にわたり運行できないこととなる。帰宅困難者は、家から10km以内の人は徒歩で帰れると想定しているそうじゃ。また20km以上の人は泊まりと想定するのだそうじゃ。



ここは「津波」は大丈夫そう、でも「液状化」は起こらないのかしら。また崖崩れが起きないのかしら。



横浜市防災計画によると、海沿いの鶴見・神奈川・西・中・磯子・金沢といった区は甚大な被害が予測されている。幸いといったら何じゃが青葉区は鶴見川沿いの一部に可能性がある程度じゃ。また青葉区には「急激斜面地崩壊危険区域」が4か所、「がけ崩れ警戒区域」が23か所指定されているが、幸い当地域(美しが丘1~3丁目)には無い。ただしこれも想定外はあるので油断大敵! そういえば、震災とは直接関係ないが、「青葉区洪水ハザードマップ」にも載っていたアライエ近辺のユリノキ通りの雨水管工事が今行われていますな。



私は遠慮しておきますが、その三百何ページかの横浜市防災計画を読みたいという人がいたら?



インターネットのgoogleか何かで「横浜市防災計画」「横浜市青葉区防災計画」で検索すると入手できます。何、紙で?...自分で問い合わせさせてみてくれ、すまん。



8月はお休みしますが、9月からは私たちも記事をかいてみようかしら。皆さんからは、いつか避難場所についてもっと確認したいという声や、震災に備えどのくらいの備蓄やどんな準備をしておけば良いのといった声が多いので、調べてみようと思うのですが。



これは殊勝な心がけ。では暫く休ませてもらうとするか。